

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 211人

② 数学 211人

③ 英語 211人

#### 5 留意事項

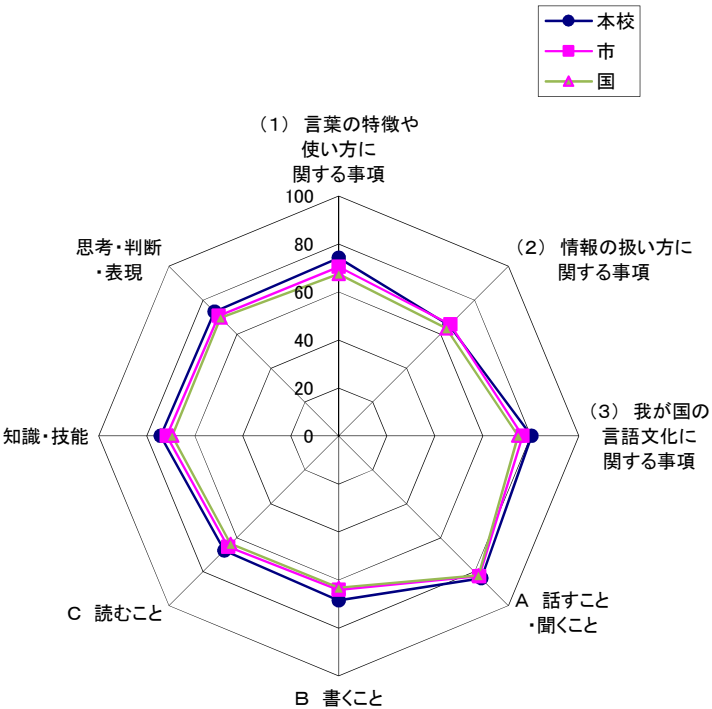
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                  | 本年度  |      |      |
|-----|---------------------|------|------|------|
|     |                     | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 74.2 | 70.5 | 67.5 |
|     | (2) 情報の扱い方に関する事項    | 65.2 | 65.7 | 63.4 |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項  | 80.3 | 76.6 | 74.7 |
|     | A 話すこと・聞くこと         | 83.9 | 82.6 | 82.2 |
|     | B 書くこと              | 68.5 | 64.1 | 63.2 |
|     | C 読むこと              | 67.5 | 65.3 | 63.7 |
| 観点  | 知識・技能               | 74.2 | 71.7 | 69.4 |
|     | 思考・判断・表現            | 73.2 | 70.8 | 69.7 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度       |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

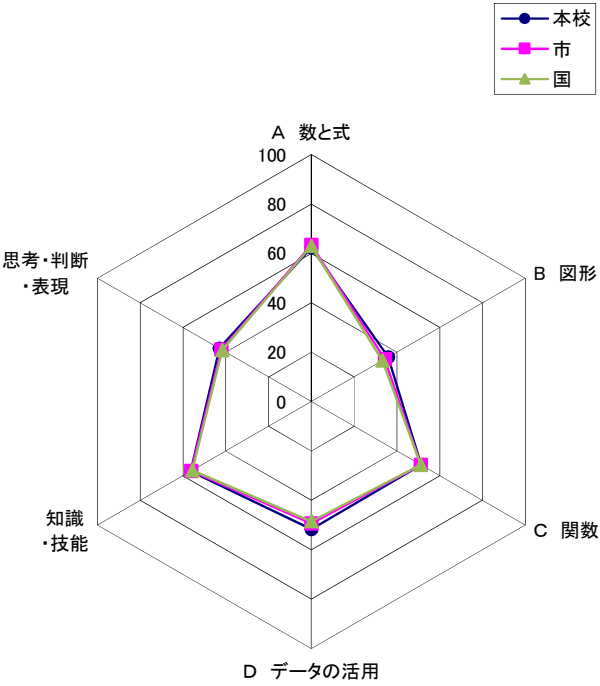
| 分類・区分               | 本年度の状況                                                                                                     | 今後の指導の重点                                                                                                                                                  |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 言語の特徴や使い方に関する事項 | ○市の平均より3.7%高かった。特に文脈に即した漢字を書く問題では、県だけでなく全国平均も大きく上回った。                                                      | 漢字の問いに対して、語句の意味を答える問題は、正答率が県平均や全国平均を上回っているものの差が小さいため、読書の機会を増やしたり授業で新しく学んだ言葉に対して補足説明をするなどして、語彙力の向上を目指していく。                                                 |
| (2) 情報の扱い方に関する事項    | ○全国平均よりも1.8%高かった。<br>●市の平均よりも0.5%低かった。<br>●意見と根拠などの情報と情報の関係性を捉える問題の正答率が全国平均や県の平均よりも低かった。                   | 情報の扱い方に関する事項の問題は、インターネットの記事を読んで気づいた点として適切なものを選択する内容であった。インターネットから情報を正しく選択する能力が必要とされるので、調べ学習やレポートにまとめる活動を取り入れる。                                            |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項  | ○市・全国の平均を上回っている。<br>○特に歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率が高い。                                                         | 我が国の言語文化に関する事項では、2／3が古文の分野から出題された。どちらも正答率は高かったため、引き続き古典分野は暗唱などを通して学力の定着を図っていきたい。                                                                          |
| A 話すこと・聞くこと         | ○話すこと・聞くことについては市の平均より1.3%正答率が高かった。<br>特にインタビューのまとめとして自分の考え方をまとめる問題では、4%市の平均より正答率が高かった。                     | 聞き取りテストを行い、話している側の意図や要点を聞き取る力を養いたい。聞き取った内容をもとに、自分の意見を書くことができるような課題にも取り組むようにする。                                                                            |
| B 書くこと              | ○書くことについては市の平均より4.4%高かった。特に読み手の立場に立って叙述の仕方を工夫して文章を整える問題では、県の平均を9%上回った。<br>●判じ絵の解釈の仕方をまとめる文章を答える問題の無回答率が高い。 | 自分の意見とともに、根拠を明確にして書く能力や、必要な情報を取り出し、正しく表現する能力を、意見文を書くことや批評文を書く分野でさらに向上させる。                                                                                 |
| C 読むこと              | ○読むことについては市の平均より2.2%高かった。<br>なお、主人公の心情を読み取る問題は市平均より5%正答率が高かった。<br>●根拠を明確にして考える問題の無回答率が高い。                  | 読むことは主に文章読解力を向上させる。そのために、教科書の文章をもとに心情等を考える発問をしたり、読み取ったことを自分の意見として表現できるようにさせる。また、書くことと同様に、根拠と意見の関係性に対する理解が乏しい部分が見られるため、説明的文章などを用いて、文と文、文章と文章の関係性を捉える機会を作る。 |

宇都宮市立横川中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

| 分類 | 区分            | 本年度  |      |      |
|----|---------------|------|------|------|
|    |               | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と式         | 62.3 | 63.4 | 63.0 |
|    | B 図形          | 35.9 | 34.3 | 33.2 |
|    | C 関数          | 51.3 | 51.2 | 51.2 |
|    | D データの活用      | 51.7 | 49.4 | 48.5 |
| 観点 | 知識・技能         | 56.4 | 56.2 | 55.7 |
|    | 思考・判断・表現      | 43.0 | 42.1 | 41.6 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度 |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

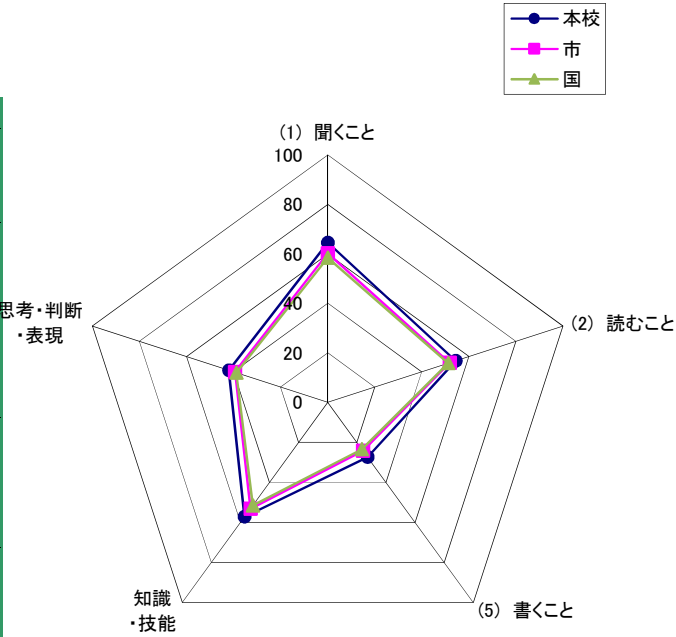
| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                               | 今後の指導の重点                                                                                                                               |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 数と式    | ○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる問題の正答率が高い。<br>●平均が市、国の平均と同程度である。                                   | ・基本的な計算技能が身につけている生徒が多く、計算問題などへの解答率が高い。自然数の意味を理解しているかをみる問題では正答率がやや低い。計算プリントやワークなどを使って、引き続き計算問題をなるべく多く解くとともに、数の種類については、1年時よりしっかりと定着させたい。 |
| B 図形     | ○平均が市、国よりも上回っている。<br>○空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ問題では、正答率が市、国よりも大幅に上回っている。<br>●図形の証明問題で、正答率がやや低い。 | ・図形の証明問題では、穴埋め形式では正答率が高かったが、記述形式では正答率が低かった。証明するにあたり、論理的な思考はできていても、書けないという傾向があることから、証明の書き方を身につけさせていく                                    |
| C 関数     | ○反比例の意味を理解しているかどうかの問題は、正答率が高い。<br>○グラフや式を用いて問題解決の方法を説明する問題で、正答率が高い。<br>●平均が市、国の平均と同程度である。            | ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる問題で正答率が低かったのは、問題が比較的長文で、読解力が求められる問題であったためとも考えられる。問題をよく読み、状況をとらえながら問題を解決することを、普段の授業から意識させたい。    |
| D データの活用 | ○平均が市、国よりも上回っている。<br>●箱ひげ図を読み取り、傾向を比較して説明する問題では、正答率が高いが、無回答率も比較的高い。                                  | ・箱ひげ図に関しては、理解している生徒が多い一方、苦手意識を持つ生徒も多いようだ。四分位数、四分位範囲の持つ意味などを丁寧に指導し、箱ひげ図を書いたり、演習問題を多く解くことで、理解を定着させたい。                                    |

宇都宮市立横川中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

| 分類 | 区分             | 本年度  |      |      |
|----|----------------|------|------|------|
|    |                | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | (1) 聞くこと       | 64.5 | 60.2 | 58.4 |
|    | (2) 読むこと       | 54.4 | 51.8 | 51.2 |
|    | (3) 話すこと[やり取り] |      |      |      |
|    | (4) 話すこと[発表]   |      |      |      |
|    | (5) 書くこと       | 27.4 | 24.2 | 23.4 |
| 観点 | 知識・技能          | 57.2 | 53.1 | 51.5 |
|    | 思考・判断・表現       | 42.0 | 39.4 | 38.8 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度  |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                | 今後の指導の重点                                                            |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| (1) 聞くこと | ○聞くことの平均が、市の平均よりも4.3%上回っている。<br>○会話を聞いて、内容を選ぶ問題は正答率が高い。<br>●説明を聞いて、質問の答えを選ぶ問題は正答率が低い。 | 問題を聞いて、絵や内容を選ぶ問題よりも、説明を聞いて質問の答えを選ぶ問題の方が正答率が低かったので、授業でも聞くことの機会を設けたい。 |
| (2) 読むこと | ○読むことの平均が、市の平均よりも3.6%上回っている。<br>●メールを読んで、相手が示した条件に合うものを選ぶ問題の正答率が低い。                   | 大まかな内容を理解できていることがわかった。より正確に読み取りができるように授業でも長文を読む練習を取り入れたい。           |
| (3) 書くこと | ○書くことの平均が、市の平均よりも3.2%上回っている。<br>●書き手の意見に対する自分の考えとその意見を書く問題の正答率が低い。<br>●無回答の生徒が多い。     | 自分の考えとその意見を書くことに苦手意識を持っている生徒が多かったので、トピックを決めてまとまりのある文を書く機会を設けたい。     |

宇都宮市立横川中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

生活や考えについて  
○「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答した生徒が88.8%で全国の平均より8.8%上回っている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に肯定的な回答をした生徒が93.1%で、多くの生徒が人の役に立ちたいと思っていると言える。  
○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いに対して、肯定的な回答をした生徒が93.5%で全国の平均より6.2%上回っている。また、「友達関係に満足していますか」という問いに対して、肯定的な回答の生徒が93.9%おり、全国の平均を4.2%上回っており、友達関係もおおむね良好であると言える。  
●「将来の夢や目標をもっていますか」という問いに対して、「当てはまる」と回答した生徒が本校は32.6%、栃木県で43.0%、全国で39.4%であったことから、本校は夢や目標をもっている生徒がやや少ないと言える。学級活動や総合的な学習の時間などを通して、将来の夢を見つけるきっかけ作りなどをさせていきたい。

学習について  
○「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は、77.7%いて全国の平均を10.6ポイント上回っている。また、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という質問に対しても、肯定的回答が87.1%にのぼるなど、学年が上がっても自分の考えを深めたり、広げたりする活動に対して、多くの生徒が継続的に、積極的に取り組んでいることが分かる。  
○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は74.4%いて全国の平均を5.2ポイント上回っている。また、「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」という質問に対しても肯定的回答が77.2%あり、一つの教科内だけで学習を完結してしまうのではなく、一つの学びを他教科、他分野に広げようと教科横断的な学習に取り組める生徒が多いことが分かる。  
●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」という質問に対して1時間以上という回答をした生徒は、7.9%で、全国の平均より4.9ポイント低い。ただ、「読書が好きですか」という質問に対して、肯定的回答をした生徒は、73.5%いて、読書自体は好きな生徒は少なくないことが分かる。

宇都宮市立横川中学校（第3学年）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                                                                      | 取組の具体的な内容                                                                      | 取組に関わる調査結果                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・「分かる授業」の展開及び家庭学習の確立による基礎・基本の定着と「主体的・対話的で深い学びの実現」による思考力、判断力、表現力、学びに向かう力の育成。 | ・基礎的・基本的事項の定着を図る「分かる授業」の展開。<br>・自主学习ノート、AI型学習ドリルの活用による家庭学習の定着と家庭学習内容の充実に向けた指導。 | ○「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対して肯定的回答が77.7%で、全国の平均より10.6%上回った。自ら学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多いと言える。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                         | 重点的な取組                             | 取組の具体的な内容                                                                       |
|------------------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 「学校の授業時間以外に、普段一日にどれくらタブレットを使用しているか。」(遊びなどの目的に使うのは除く) | ・学びポケットの中のMEXCBT連携アプリを使用する学習課題の配布。 | MEXCBT連携アプリを通して、各教科の補足的、発展的な学習課題を生徒に提示し、AIドリルを通した単元ごとの確認と併せて、タブレットの使用時間を増やしていく。 |